

1 受賞団体・個人の名称

くりたおんしつのうえん

栗田温室農園 (群馬県吉岡町)

(問い合わせ先)

http://www7b.biglobe.ne.jp/~tomato_kurita/

(経歴)

栗田文明氏は昭和49年に就農。

ガラスハウスを導入しトマト栽培を開始。

就農以来、「**いいものをつくりたい**」との一心で研究と実践を重ね、**化学肥料を使わない徹底した土づくりと化学合成農薬をほとんど使わないトマト栽培**を30年以上続ける。

(受賞時の経営内容)

施設栽培トマト0.3ha。労働力 家族3名。



2 生産面の取組

「**土壌微生物相を良い状態に保てば、病原菌は繁殖できない**」との考えから、就農以来30年間化学肥料を一切使わず、毎年、施用する有機質資材等の種類、量を調節し、**土壌微生物相の状態に細心の注意を払う**。そのため土壌消毒は一切行わない。

土づくりの実践を基本に**抵抗性品種の導入**、授粉への**マルハナバチの利用**により病気の発生が少ない環境を作るとともに、**防虫ネット、微生物農薬の利用、病害虫の発生にあわせた防除などIPMを実践し、化学合成農薬をほとんど使用しない**。また自根栽培でも連作障害が発生せず、輪作を必要としない。

母校の大学とハウス内の温度分布を共同研究し、ハウス内ダクトの配管の工夫等により、冬期加温時の**ハウス内の温度差を1℃以内までに制御した効率的な暖房**を実現した。

さらに**保温性の高い屋根式フッ素フィルムハウスの建設**で、**重油の使用量を半減**(表1)、二酸化炭素排出量も大幅削減した。

生産履歴は毎日野帳に記入する。過去10年間の履歴をパソコンに保存し毎年の作業に活用している。



3 経営面の取組

農園での「**顔が見える**」**直接販売**を中心に、JAからの市場出荷、インターネット販売の3ルートで販売。

土壌病害抵抗性があり、「**赤熟もぎり**」が**可能で味の良い品種**(王様トマトマイロック、王様トマトごほうび)を導入。

ホームページを開設し、連絡先や、栽培方法など**消費者への情報提供**。

種苗会社の許諾、JAとの協議で個人名で「**王様トマト**」**ブランドの市場出荷**。



4 取組の成果

徹底した土づくりによる病気の低減やそれに伴う自根栽培で、**農薬衛生費、種苗費を抑え**、さらに効率的な暖房により**動力光熱費を抑え**、**経営費は県農業経営指標の約6割である**(表2)。

30年間、生産量、農業所得はほぼ安定し、環境保全型農業の実践により生産量や経常利益が落ち込んだことはない。

顔の見える販売により「**安心して美味しいトマト**」との**高い評価を獲得し、優良な経営**を実現。

5 地域社会への貢献

毎年夏に「**トマト狩り**」を開催し、農園を消費者に開放。好評で来園者多数。消費者と**自分が食べるトマトとその栽培を知ってもらいながら交流**を図る。

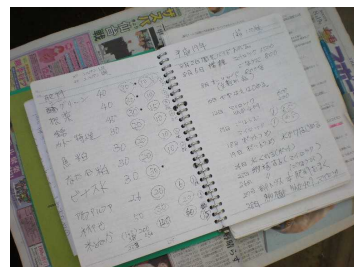
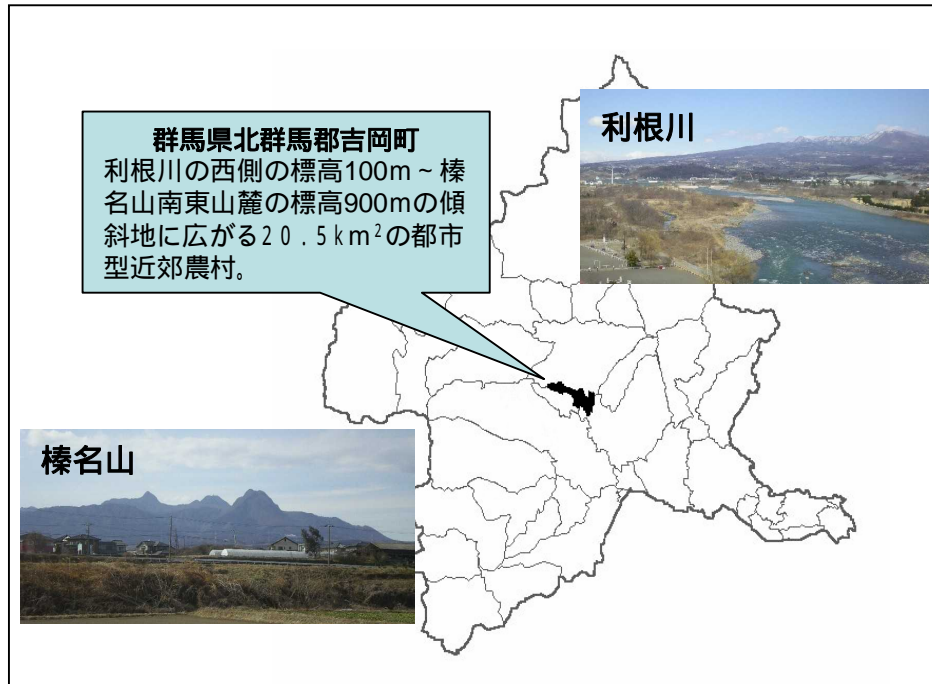
栗田氏は町の認定農業者連絡協議会、後継者である長男和巳氏はJA青年部で、それぞれ**児童、一般住民に農業への理解を深める活動に参加**する。

和巳氏はスポーツ少年団で教える児童と保護者を招待して**トマトもぎとり体験**を実施、食育にもつながり好評であった。

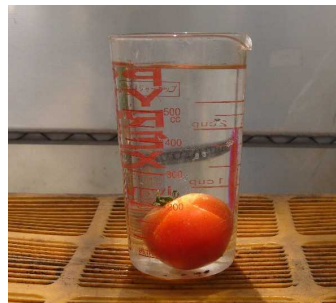


(別添資料)

図 群馬県北群馬郡吉岡町



生産履歴の記帳
記帳は就農以来残っているという



水に沈む生産されたトマト

表1 ハウス加温に要する重油使用量

栽培年	ハウスの型式	10a当重油使用量
		(L/年)
平成13年	ダッチライト型ガラスハウス	4,370
平成14年		4,170
平成15年	ハウス更新のため栽培休止	-
平成16年		-
平成17年	大屋根式フッ素フィルムハウス	2,330
平成18年		1,330

表2 主な経営費(円/10a概算)

費目	栗田温室農園	県農業経営指標
農薬衛生費	33,000	106,511
種苗費	40,000	121,044
肥料費	250,000	89,951
訪花昆虫費	31,300	49,350
動力光熱費	70,000	237,903
合計	424,000	604,759